

平成21年度大学院教育改革支援プログラム  
「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」  
「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告

自主企画の内容

企画の名称

「会社における異文化理解」

開催日時、会場

2009年12月18日 15:00～17:00

講演者

住原 則也 (天理大学 准教授)

企画者

曾 璟蕙 (人間文化研究科博士前期課程 生活文化学専攻)

松尾靖子 (人間文化研究科博士前期課程 生活文化学専攻)

シャディア (人間文化研究科博士前期課程 生活文化学専攻)

支援教員

松岡悦子 (人間文化研究科生活文化学科教授)

参加人数

16名 (内訳:[学内]教職員3名,大学院生7名,学部学生・研究生3名,[学外]3名)

自主企画概要

今回の講演は多国籍企業内における文化についての理解と専門がある天理大学教授の住原則也教授にお願いしました。奈良女子大学には留学生はとても多く在籍しており、卒業後日本で就職する人も多くいます。しかし日本で就職したい人はとても不安を感じています。「日本の会社文化とは何か？」この質問を聞かれるとみんななかなか答えられないでしょう。また日本人の学生においても外資会社に就職して異文化の差異も理解できずたくさん苦労もしてしまうでしょう。そこで多国籍企業における会社文化について知識を増やした方がいいと感じ、多国籍企業の会社文化についてのお話をさせていただきます。そして、多国籍企業の会社文化についての理解を深めたいと思います。

## 実施報告

### 1. 講義内容：

#### 1.1 日本と海外とのオフィスの違い

日本のオフィスの机の並び方はつながっていて、自分のスペースはあまりなく、ほとんど共有スペースであり、しゃべりたいときはすぐ隣の人としゃべれる環境であるが、アメリカの場合は壁のようなついたてをつかって、個人のスペースを作られている。よって日本ではオフィスに入れば、必ず挨拶できるが、アメリカの場合、個人のスペースのあるがために誰にも会わないまま個人のスペースにはいってしまうことがある。そして働いてるときたとえば廊下で歩いて、知人に声をかけられてもあまり返事しないとのこと。そういったところからも日本は和を尊重するしアメリカは個を尊重するのである。

#### 1.2 会社の選び方

日本人が会社を選択するときは人それぞれ選択ポイントというのがあるが、海外の人は面接をするとき、会社の雰囲気が一番気にしていて雰囲気があまり気に入らないなら、その会社には入らないことがある

#### 1.3 有給休暇について

日本の会社は有給休暇を仲間に迷惑がかかるからとれない、とりたいけど言い出せない、有給休暇は体調が悪くなったときにしか使えないなどあるが、海外の会社では積極的に社員に有給休暇をとれとの風潮があり、有給休暇の取得率は海外の会社は圧倒的に多い。

#### 1.4 感想

日本と海外（主にアメリカ）の違いを聞き、会社の風潮というよりもそこで働く人の考え方、文化がそのまま表れているという印象を持ちました。それと有給休暇についてはなかなか衝撃を受けました。この話を聞くまでは有給休暇は普通に取れるものだと思っていたので、何のための有給休暇なのか疑問に思いました。

## 2 総括・総評

まず初めに今回お忙しいところご協力いただいた住原教授に感謝しております。私自身留学生であるので、日本の会社と海外の会社との異文化の違いがどうなっているのか気になっており、今回のセミナーを活用したわけですが、オフィスの雰囲気、挨拶、考え方など自分の国との違いもあり、大変勉強になりました。また実際今回のセミナーを開催するまでの過程についても私にとってはプラスになりました。テーマを決めてから専門の教授と打ち合わせや宣伝や手続きなどいろいろ大変でしたが、まわりの人の力の応援や支えがあって成功することができました。何かを達成するために自分一人では微力ですが、まわりの人達の応援や支えがあれば、大きな力になることも今回のセミナーを通じて学ぶことができました。

（文責：曾 璟蕙）